

第6回東京池袋川柳会誌上句会(いけせん)

題 [自由] 杉山 昌善 選

914句のご応募をいただきありがとうございました

■主催 ■東京池袋川柳会 ■後援 ■(一社)全日本川柳協会
 ■協賛 ■SME経営者交流会・(株)豊島新聞社

特選

鳥一羽離して手足かるくなる
 米山明日歌

秀作

ひらがなの様な気分にする風呂
 北村純一

しばらくは自由でいたい足の裏
 平井松風

何時の日か肩甲骨は羽根になる
 伊藤正美

弱虫の心の底にある自由
 大本 工

佳作

「総評」
 「自由」形の見えない題でしたので、「自由」とは何かを十七音字で、説明する句が多かったです。定年後の時間、妻の留守、籠の鳥、また、自由と責任をセットにし、道徳的、倫理的な表現も。その点、「自由」は、標語やスローガンになりやすい題だったかもしれませんが、今回のポイントは、「自由」をどのような具象と組み合わせ、自分の心情を吐露するからです。佳句の皆さんの具象のバラエティをお楽しみください。
 「特選」
 鳥が大空へ自由に飛び立つという発想が多かった中で、一羽の鳥を自分から切り離すという人間の視点が面白事。「放す」ではなく「離す」に、濃密な密着からの開放を感じます。
 杉山昌善

傷癒えて見上げる空の青きと
 下江悦子

自分からエデンの園を出たのです
 渋谷史恵

オシドリも列行動で伸ばす羽
 小熊泰子

猫として生きるためなら努力する
 長峯雄平

奔放な矢印天を指している
 白瀬美智男

あの頃は自由を謳歌した眉毛
 田崎 信

部屋の鍵しめて自由を夢みてる
 岡田弘子

わが道を行く肩書きのない名刺
 渡辺勇三

散らかった自由集めて待つ天寿
 青山三休

渡り鳥自由なように群れて飛ぶ
 幅 茂

日の丸の上下左右もない平和
 黒川周平

かまぼこを縦に切っても、いじやない
 藤井京子

切れている鎖気づいて、いな、犬
 伊東 真

天の川渡り逢いたい、人に逢い
 川村 均

唐突に自由なメイクする深夜
 藤田留美子